



特集

塩竈をもっと好きに、塩竈に誇りを抱く

—塩竈市観光振興ビジョンの取り組み—

塩竈市観光振興ビジョン(2018~2025年度)を策定し、1年が過ぎました。

古くから門前町や港町として栄え、文化伝統的遺産、魚介類や地酒など多彩な魅力にあふれている塩竈市。

この魅力を、多くの人に知ってもらうにはどうしたらよいのでしょうか。

観光まちづくりを志し活動してきた「塩竈市観光振興ビジョン推進委員会」の活動を紹介します。

問 観光交流課人・まち交流係 ☎364-1165

観光客を受け入れる人がつながり、
一つのビジョンに向かう

平成30年5月、観光振興ビジョンを推進するため勉強会が開かれました。勉強会には、さまざまな場所で活躍する若手事業者などが参加しました。観光まちづくりにあたり観光振興ビジョンの理念と内容を共有し「仲間と語り合えるビジョンの輪を広げていきたい」「この取り組みを知ってもらうため発信力を高めたい」など活発な意見が飛び交いました。

その意見を基に「本町通りまちづくり研究会」との意見交換が行われました。本町通りまちづくり研究会は、門前町の活性化のため尽力してきた団体です。同会の協力があり、平成30年9月に「みんなくるくる談議」これからのまちづくりを考える」の開催が実現しました。

「みんなくるくる談議」には、塩竈の観光まちづくりを考える若い世代を中心に73人の仲間が集まりました。今までの活動紹介、観光振興ビジョンの共有、互いの思いを語り合うことで、新たなネットワークができました。

昨年は、門前町をテーマに話し合いを続けてきました。今年4月に行われた「花灯り」では、それぞれが役割を發揮し、市内の店に寄る人が増えるなど、まちの賑わいを創り出すことができました。

このように、観光まちづくりの実践的な取り組みが行われています。



みちのく潮風トレイル Michinoku Coastal Trail

「みちのく潮風トレイル」とは？

6月9日に「みちのく潮風トレイル」が全線開通しました。

みちのく潮風トレイルは、青森県八戸市蕪島から福島県南相馬市松川浦までの海岸線を中心に設定された「歩くための道」です。

環境省の東日本大震災復興プロジェクトの一環として、東北の太平洋沿岸を一本の道でつなぎ、自然や景観を大切にすることや震災の記憶の伝承を目的に作られました。

本市の特徴は「島巡り」と「まちあるき」

東松島市から船で本市浦戸諸島まで渡る「奥松島・浦戸諸島 島巡りコース」では、奥松島から浦戸諸島にかけて、日本三景松島湾の、白く輝く凝灰岩が織りなす見事な景観を望むことが出来ます。

また、東北の歴史と文化を肌で感じることができる「1300年の歴史を訪ねるコース」では、本市市街地を歩きます。

詳しくは、ホームページをご覧ください。(http://tohoku.env.go.jp/mct/)

問 観光交流課観光係 ☎364-1165

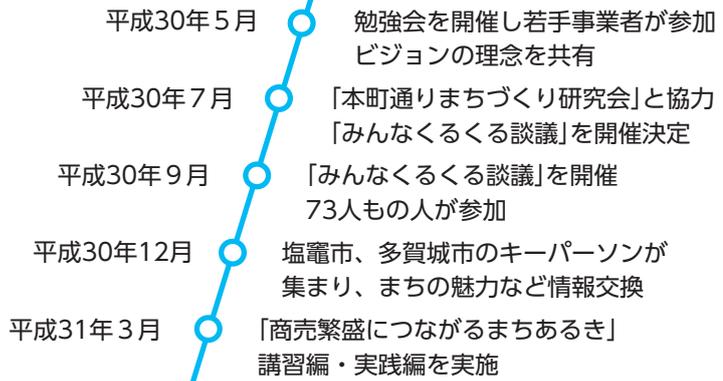


みなと塩竈 海保カレー 提供店

塩釜商工会議所では観光振興の一助として「みなと塩竈海保カレー」の提供に取り組んでいます。提供店は以下のとおりです。

- 武田の笹かまぼこ 塩竈本店(港町)
S-PAL仙台店(仙台市)
- TAVERNAGIRO(海岸通)
- ホテルグランドパレス塩釜(尾島町)
- 食事処 大國屋(港町)
- 酒ダイニングかじきや(尾島町)

問 塩釜商工会議所 ☎367-5111



「おなJi-shop」はなまはなっ

平成31年3月には、観光客に地域の魅力を満喫してもらうため、商店などが「おなJi-shop」を開始しました。参加店が相互に連携し、お薦めスポットや他店の紹介などをする「まちなか案内」を行います。効果的な案内をするために、講習会と実際にガイドをする研修会も開催しました。

講習会では「自分にとっての当たり前が観光資源。それを認識するのが『ガイドの視点』のスタート」という話があり、参加者は、ガイドをすることで、改めて自身のお店や塩竈の魅力を見つめ直していました。



▲店頭のフラッグが目印

塩竈をもっと好きになり、 塩竈に誇りを抱く「シビックプライド」

「塩竈市観光振興ビジョン推進委員会」の活動を中心に紹介してきました。このように、観光客を受け入れる人たちがつながり、市に関心を向け、魅力を発信しています。さらに、市の魅力を発信するには、市内で生活するみなさんの力が必ずやります。

市への愛着や誇りを抱くことを「シビックプライド」と言います。このシビックプライドを持つには、市のことを知り、好きになってもらうことが必要です。好きなことは誰かに教えたくなります。皆さんが発信した情報をきっかけに、塩竈市に初めて関心を持つてもらえるかもしれません。

塩竈をもっと好きになり、塩竈に誇りを抱く。そんな人を一緒に増やしていきたいませんか。



otomo. 大沼さん
(塩竈市観光振興
ビジョン推進委員)

活動してきたものを一つ形にしようと思いい、花灯りのときに店を開けることにしました。神社や酒蔵を巡った後に寄れる店があることで、まちのにぎわい創出につながったと思います。

今までは、塩竈市への思いを持った人たちが、それぞれ活動していましたが、観光振興ビジョンを通して、一緒に活動できるようになったと感じています。